扶桑拾葉集　巻三

扶桑拾葉集卷第二十一

目録

嘉吉三年詠合席　藤原兼良
文安詠詠合席　同
雪中乃春　同
[illegible]席　同
花鳥餘情席　同
南都百首席　同
[illegible]乃記　同

内閣文庫

草根集序　同
古今童蒙抄序　同
歌林良材集序　同
初学抄序　同
勧修念仏記序　同
仙洞歌合跋　同
竹林抄序　同
世語問答序　同

拾葉集巻第二十一

参議従三位兼行右近衛權中將源朝臣光圓編集

嘉吉三年歌合序

藤原亀鶴

風雅と言いわたつ[illegible]
我国なりひと人の[illegible]
[illegible]
如世[illegible]
情[illegible]
[illegible]
て[illegible]

[illegible]
もとの道今ふ[illegible]
[illegible]
むとて[illegible]材と[illegible]の御時よりいろは[illegible]の
と[illegible]と[illegible]ふ[illegible]
承こ暦れ内裏れ今合ひ[illegible]れ
家こ[illegible]て時よ[illegible]
[illegible]
[illegible]や[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

おとされたるまつのほつぱのうへに
むつひなる雪のはらはらとふりかゝ
れるなどいとをかしきなり
こゝに紫式部のあらはしたる源
氏物語のなかにゆふぎりのうつし
いへとゝもあるものなりとかいて
きくにまたふるとまあるほどにおち
ぬる事いと春のあさぼらけこそ
いとをかしけれとかいてあるこゝ
ろなり
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり

とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
つゝこゝ十人をえらひ
出すなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ
るものなりとかいてあるこゝろは
とうろうにうつしたるものなり
とかいてあるこゝろは
ゆふぎりのうつしいへとゝもあ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

文安詩歌合序

詩歌合とは[illegible]上古[illegible]を[illegible]
[illegible]中[illegible]遠仁乃[illegible]政[illegible]
[illegible]後元久[illegible]
[illegible]今やまと
[illegible]人[illegible]
[illegible]唐乃[illegible]境[illegible]
[illegible]

同

[illegible]
津[illegible]乃[illegible]賦を作[illegible]詞人才子風
[illegible]て民業一[illegible]
[illegible]弘仁乃帝[illegible]代
[illegible]
[illegible]浪[illegible]
[illegible]
[illegible]和[illegible]
[illegible]白楽天元微之[illegible]詩の時
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くしてこれをもてあそびて
うちなげくこゝろ山こゝろを今やうの事やう
小袖ゝをのれもとむ〳〵おもしろき
ゝをかしふやうの物と時代とをもふるひ
やうにて中〳〵ものきえんとこゝろはやく
もなくこゝろはおもしろくこゝろの知らぬも柳桜と
ゝをれたる姿をとりの鶯とをとれうはい
ゝや奥沢乃御小まちの紀と見給ふ
こゝはこゝにあるべきものつゝのゆきとまりつゝく
ゝをもしろしおもひ〳〵はおもしろさうの
おもしろおもしろおはんあるものも今乃世ふなと

ゝをれをもうれしくはんとはいとはらく
しをもしひおもひあるかりあるおもうをも遥
門をゝちをくゝをおもしろくあるおもしろ
はゝをくゝをおもしろくゝをふうをかゝ先
給をゝをゝをもしろくゝをもしろくゝをを
ゝをゝをおもしろくゝをもしろくゝをの
ゝをゝをおもしろけゝを日来をゝをゝをゝを
給ゝはゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝを月乃十六
とゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝを
ゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝを
ゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

都て四方の末すえにゆみわたりて
きまれる色鳥のこゑ云乃なるは
おのゝみうれなるを拾遺納云て三十ケ條
乃或もこれ乃時節よりなる物なる
事ことゝなるをおほえ給ひいとんやゝ
きふいこのえさるゝ乃日なるとゝくく
乃物をしらうゝなるを日なるをゝ何
をの乃ゝ雑人なるをゝ何
と云いうゝ乃ゝ乃ゝ
きくすみ物をゝやゝ
あるゝ人をゝうけをゝ給ひになやしを

なるものをゝ乃ゝ
乃物をゝとゝいるゝ
ひんるをゝ
人ゝ
ゝゝ
例ゝ
きゝ
凡蝶所乃ゝ
車ゝ乃物ゝ
ゝゝ
二ゝ

[illegible]の前を[illegible]
わたしもとおつぼね御殿をみるの乃ふ
のゝ南と西面と小ものの[illegible]二てゝを
[illegible]殿と乃殿乃東と南面
おゝ[illegible]
御下乃[illegible]乃殿とおゝのすゑ小[illegible]
むゝ[illegible]のゝ[illegible]みをゝて殿と人
乃殿とす又南のゝ東とゝみゝ
小又をゝ[illegible]
そのすゝ[illegible]
[illegible]と次しつゝ[illegible]殿を

しめゝゝゝ西いもはゝしおゝゝゝく
おゝゝく乃門乃ほゝゝゝ
ゝゝ西をゝひゝ乃ゝゝ大納言殿
をゝゝ[illegible]白當乃内侍乃
局ゝやすゝもおゝゝゝやて御前ゝ
ほゝもほゝゝ西ゝ盃をゝ西ゝゝゝ
をゝ乃ゝひゝゝゝ時をゝゝはゝ
ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

源氏乃大将の格天網といふ社寺
[illegible]時[illegible]
[illegible]社[illegible]
[illegible]
乃尼迦の世[illegible]構成量鞠と[illegible]
[illegible]
[illegible]時[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
校[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

せられしうちを通りて
すぐにうちとり奉りたんん
後鳥羽院の御時松殿の入道関白殿
の[illegible]ひとをもたせられたる
まはりしかたをもて事なかりける
[illegible]の御[illegible]
の御[illegible]
小[illegible]れ[illegible]
とも義人庭[illegible]少年[illegible]御[illegible]
御[illegible]と柳[illegible]
物[illegible]あるて[illegible]の中納言雅[illegible]

進みうちの御[illegible]
あるとをもへ[illegible]雅康卿[illegible]
[illegible]ひつ[illegible]
あるとの[illegible]
校[illegible]
[illegible]
[illegible]御[illegible]
の東南[illegible]
又[illegible]
[illegible]の東の[illegible]
[illegible]西の[illegible]

[illegible]の東大納言殿[illegible]
[illegible]帥大納言いわかの[illegible]
みなみ日野大納言[illegible]
[illegible]鳥井の中納言[illegible]
[illegible]ひつ[illegible]の木の[illegible]
[illegible]
[illegible]大納言殿
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]中し西白河殿[illegible]
[illegible]御[illegible]
[illegible]又中門の外[illegible]
右京大夫勝元[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
御[illegible]殿之御座[illegible]
[illegible]入御[illegible]
[illegible]納言殿[illegible]

[illegible]中すこし移[illegible]
[illegible]御[illegible]
[illegible]事[illegible]
[illegible]
[illegible]下[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]院[illegible]
[illegible]殿[illegible]
大納言殿通[illegible]

奥義をきわめて弥増不思議の事なり
しかるにそのうち刑部少輔頼朝成通
山道をはるかに安元四月の初旬より
ひとしきりなん給ひしかば頼朝の孫宗長雅経
おのおのうち連れ鳥羽の西流のうち
めでたいつもりとぞ見なされける
後鳥羽院世をしろしめすに建久元年の秋
中しろしめすに義元二年の四月の
上旬と長者となりて成通
の子孫泰通と申しける人宗長雅経
なり連署の状をとりかはしける

天炊御門前太政大臣頼實公世をさて
竟宴の事ありしかども上八人中八人
下八人なりしかば宴の
こと定まりぬ
豊後
中ごろ
時の
て紀伊景といつもりて紀伊守を定まれる
殿の御事なりしかば
今ぞ
宗長いとのみふるに
はとぞ

遠藤[illegible]門[illegible]
[illegible]
[illegible]流乃御門[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]流後源草流[illegible]
中興[illegible]
[illegible]
[illegible]

けるとの仰せを受け殿舎元園殿
照会院殿のもとへ参りみるとの仰せあり
ましたんけるに成るとめ申てらせく
むるとの仰せを南院
本堂の仰せ御ものの例を南院
御ものの事ハ御ものの例を
これ通の先達ハ上皇の御
仰せ事ハ開白大原
法とのの事ハ御ものの例をしく
をもしの仰せ公度を應永二年ハ国
ものの例ハ祖父中納言入道殿之人

ものの仰せ事ハ
ハ例と和永享九年花乃御所へ
納章仰せ事御ものの鞠乃仰せ事
文贈大納言之鞠紙法之仰せハ国
公通ハ一家ハ
姫人ハ仰せ
乃庭例とハ
御明乃御ものハ
ものの仰せ事ハ大納言殿乃
通ハ事ハ
ものの成ものせんの仰せ

[illegible]い鹿苑院殿と申し永徳乃
[illegible]年より右大将[illegible]
[illegible]後禁裏仙洞[illegible]
[illegible]
[illegible]の事より[illegible]
[illegible]御こと[illegible]
[illegible]
[illegible]代乃御事と
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]黄帝と申御門跡
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

享徳二乃年三月廿七日内裏乃
[illegible]の御[illegible]乃日記如房[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人々裝束并韈色事

後花園院
主上　御直衣半色御指貫窠霰文無文燻革御鞦有伏組

伏見殿
式部卿宮 貞常　直衣薄色指貫雲立涌文有文紫革縫物

近衛殿
前關白 房嗣　直衣有文紫革縫物

一條殿
内大臣 教房　衣冠錦革

室町殿
大納言 義政　直衣薄色指貫有文紫革縫物菊折枝有伏組今度自上給之

三條
帥大納言 實雅　直衣有文紫革

德大寺大納言 公有　直衣蓋白地

烏丸
日野大納言 資任　直衣錦革

今出川大納言 教季　衣冠錦革今度被聽之

三條中納言　直衣錦革今度被聽之

飛鳥井中納言 雅親　衣冠汗取帷浅黄織物指貫有文紫革縫物唐草有伏組自大樹被調下之

井露寺 左大辨宰相 親長　直衣藍白地

園宰相 基有　衣冠藍白地

山科 右衛門督 顯言　直衣藍白地

正親町西 公澄朝臣 參議中將　衣冠藍白地

殿上人

滋野井 教國朝臣　衣冠藍白地

高倉 永繼朝臣　衣冠藍白地

飛鳥井 雅康朝臣 少將　衣冠錦革有伏組自大樹被調下之

賀茂輩

夏久縣主　錦革

勝久縣主　藍白地

秀久縣主　錦革

益久縣主　以下皆白地

增平縣主

延隆縣主

彌久縣主

鴨

冨祐縣主

宮久縣主

以上衣冠

見證公卿

一條　兼良

關白　平絹直衣指貫

鷹司　房平

左大臣　直衣

二條　持通

右大臣　衣冠

三條西　公保

武者小路前内大臣　平絹直衣白綾指貫

三條前内大臣　實量　直衣

西園寺中納言　實遠　直衣

立乃序

同

漢家乃待文乃年譜月録と以て物乃多和
化乃前後暴進乃年月と加〻乃人乃ゝ可ゝ仮
ゝ可ゝ毛ゝ可ゝ源氏物語乃年譜おゝ作ゝ緒
家乃注入ゝ可ゝ毛ゝ一部乃年立
ゝ可ゝ可ゝ可ゝ冷泉院乃御従生つ和ゝ人
ゝ加ゝ可ゝ事ゝ毛ゝ可ゝ四統ゝ可ゝ三年脂肪
海ゝ毛ゝ可ゝ可ゝ可ゝ大将乃昇ゝ竹河紅梅
ゝ可ゝ後宇治乃ゝ可ゝ
水原乃海諸物ゝ毛ゝ筆ゝ可ゝ可ゝ可ゝ

ゝ乃ゝ可ゝ可ゝ可ゝ待文乃例ゝ可ゝ可ゝ人ゝ
五十口拍乃ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ桐壺ゝ
幻乃ゝ可ゝ可ゝ光君乃年齢ゝ可ゝ可ゝ可ゝ
句ゝ可ゝ可ゝ可ゝ宇治十帖ゝ可ゝ可ゝ蓋大将ゝ
年ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ
乃ゝ和ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ
ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ
ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ博覧乃人ゝ和ゝ
ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ
ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ可ゝ
ゝ可ゝ

乾鳥餘情序

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春日野

[illegible]

武士乃家より出れ[illegible]弓馬乃道より
さらに[illegible]きもあり法乃師の門をたゝ
き[illegible]ゆきもしらしに
[illegible]葉[illegible]あそひて花乃朝月夜
[illegible]流乃百首の題[illegible]大和乃猪名乃
[illegible]硯の水[illegible]
[illegible]やしたらめ[illegible]葉とか
[illegible]事[illegible]

ぬら河の紀

同

胡蝶は夢の中より百年の楽を貪り蝸牛の角まろうより二尺の諍を終とやらいひ
けりといひ書かりけんの事ろうし
はるつまをかくよはきをひとりんをあやま
すこうををうふをを應仁のそうれんせの
乱しうう世をうを花の都の故郷をいあ
らわ京の月日はゆきめぐりて見ぬ
あるのを見居よりはやうやうにしてて
六ろうの春秋ををうもくつてうを
はるをきをれ行のをうをうをわるふ

身をうれくをひろうをあるなやめるの
秋のをうをうをなるわをを正の系
みをうをうをもををうををのゆうを
うをの人ををあるのをなるひをの松を
ををををあるをもあをれいをれか
をのかをうををををををををを
ををの年あるれをうの月いをの
をををををいをを人あをれを人の事
いををを我身ををををいをの七日にむ
をををををををををををををを月をををを
ををををををををををををををををををを

[illegible]に二日より[illegible]の事を
[illegible]て般若寺[illegible]梅谷[illegible]
人[illegible]
[illegible]日の[illegible]
[illegible]
[illegible]月の[illegible]
[illegible]の郭[illegible]
泉川を舟[illegible]
[illegible]泉川
今日より藤の[illegible]
[illegible]関[illegible]世の[illegible]事

[illegible]
[illegible]仁[illegible]
[illegible]事[illegible]
[illegible]
[illegible]世の[illegible]
伊賀の[illegible]
[illegible]
[illegible]

あり給ふね

物語て雨い降まぬ新しるを

あさきりまたての家やまし

三日あさこやをとうて舟をひとう

くるひあるとまくもあらぬ木くり草

かりあるていうくるねわをとうてくるを

ゆくて石山寺よりまうて大悲者を礼し

たる

さくらをふりせもうくねねるい

けるあひうるを誓ひくるり

濱の関とうい青蓮院の庭をとりてを

をり給ふ松本をとを紀大津よりうて

さくうくるをうくて 鵜飼の舟ゆひ

待を給ふ

くるかひくるてき荷うけ詠歌

おほつの星よりそうやまん

かくてその松い坂本の家よりまぬ七ちや

うをくるとうりおうくなりて

老をもくるんをせのさくもとに

杖とり物むしを七の秋うき

四日坂本をいて舟よのうくて

伊浪やうをはうしを私かせん

をひらせをこぎ
出れども順風なきれいひ行もすすまず舵をおし
て漕出の浦より和歌の浦へ
こゝかゝる浦より沖へ出る山のすがた
月よかゝる川
あゆをとる時あるこゝろをこゝろ
かゝる帆に風をうけてこゝろむ時の
行こゝ三四里こゝろあるこゝろをもて
舟人のかつをこゝろえてこゝろ
ゆきもあるこゝろも風をうけて
こゝろのいつゝ時こゝろの里にあるこゝ

せて
こゝろ〳〵休息すこゝろれより和舟をこゝ
こゝろ日ゆかのこゝろあるこゝろ素よりこゝろ
なのこゝろにこゝろつこゝろにこゝろれ
こゝろ和をこゝろあせこゝろ
こゝろ舟こゝろ所清こゝろいつゝこゝろ一寸
こゝろ上こゝろ一寸こゝろ下こゝろなこゝろて来こゝろ
ひこゝろこゝろあれあこゝろこゝろやこゝろんこゝろ艮光
乃脚こゝろ清こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろす
こゝろて

夏の日もむすこゝろ氷こゝろて
ありこゝろこゝろこゝろこゝろ舟のこゝろ

岩ねをかしてあるさゝ井はん
なりやつるあるまちの柔
かゝ原さく
吹風やまさきね秋を柏原
ゆふひろさきの花ふうをすす
こけさくといふはあまとみれたの山紙
たゝ右ゆ原ゆ
右ひさうみてさきりいあまちの
このゑそさくをさくしする
伊賀賀下といふいさくみたいさいて墨塚と
みさう一文関ふあきれ二方夫まさう

こ紀原といふさく
此ゆよ秋やいまと手白せむ
まみちのぬさいさくあくすさ
号の御といふ所を
夏まていたさ秋をまさね号此
たさのふさやなされあさん
藤川の橋乃きさ秋あきさをみて
さきさゆやいさくあされいさ
なさくさくぬさ藤川のさ
見人君れ乃なされのさくすて
万代さまは世さの藤川

[illegible]

白浪いきしの岩のうれしさも
くちもの[illegible]乃石[illegible]
野上の[illegible]
猿人よめる[illegible]草をすまれい
[illegible]上の里にひろ[illegible]をやきん
昔[illegible]の天皇[illegible]の位を辞し[illegible]家
[illegible]山[illegible]
なって大友の皇子にをうばれ[illegible]紀
ひろう山をめぐって伊賀伊勢の[illegible]
[illegible]野よりめ[illegible]

日本紀なるに[illegible]
あれい[illegible]の旧[illegible]
[illegible]草かり[illegible]のあさゆ
[illegible]
あをまれい[illegible]草をう[illegible]の
[illegible]
山中[illegible]
時[illegible]月の山中[illegible]
[illegible]
不破の関屋をふ[illegible]
[illegible]中[illegible]門[illegible]

[illegible]の風とうみ[illegible]まれ
と思ひあるをもまもて
あまとりのうたのさたやのいたて
久しくぶ[illegible]をかし[illegible]めをまれ
関屋の中よりいさ紀ちうのあるを見人
工をうつ結をいまもんをまみてをい
ひをもといつ海うやあの浦伝ようを紀
ゆをうんとをたらしまは事あれとまは
関のやうみもあうあをを待て
隠れ家をを紀まうれ家ををあい
雲のうこめいさをあうあを

又日のさるの時計よりさるを井のまをくうて
うを屋南をの条をて見物のもうをあ紀
さかうくうをうを海うひ京風の山を紀
外をあうをうをむうをうをうを外所る
格女をあをあをまをや杜牧の珠簾十星
揚州紀といへ事紀あをまをへ外也
あををうたんれうけうむ簾
をを井のをうを秋しぬまをるん
又彩をいかやを紀みを事紀みを
かうををうれい
我宿の庭まをあをあをあを草

[illegible]

六日の早朝出発する所をたづねて[illegible]名所を
[illegible]

分明い四方れ草木のそよぎ
あをのつゆの美乃しろ
[illegible]

そびのむしろのあをみたる
あさぎりの川
[illegible]川と舟をあそばせて
後ゆきにまゐふくるせ川

月の光をよそに待うん
江口といふ橋はあり同名れと花ゆるこ
なりて[illegible]は[illegible]飼乃[illegible]
[illegible]舟よる[illegible]
[illegible]江口のあそびこゝろ
七日[illegible]に[illegible]院主か
[illegible]
二日[illegible]
[illegible]乃[illegible]
[illegible]

七日うちの持足院ようくうをうましを
ひく三位の大伯都姉椿をふりうもうるて忍
ううううしをいつ此あひうかあまうの正法寺
休所をうふへきうしをもあす旅のつもりて
彩んひとつ所をうふうくしもんいもうら
八日正法寺ようるる此もの彩刺の緒山や由
良門徒ようて山號をい霊薬山といわ四中
最初ハ経林なわうるる新造の一寮あ
るを休所ようなへてうはをすまむ朝夕
ひうをもうくうくうれいをるすまお
ううふうのあひうの蘇乃りう

しのなをうるうるやをうん
九日欲の枝論あるを
十日連歌百韻あわ
十一日正法寺ようむひうる城をつる池を
ううて軍壘ようをるをうするうう
舟をうくうりのうにいる信期法
ようるうあうるを山岳乃すあをもふひ後
図なをあを特仏堂ハ浄土乃三昧をも
ふかうるるうくうる名化の本尊しお
ほ山ひ岳号をもをうる社城と云
二字紙をひうり侍り奥芳新四郎利

四八位右の姫君の御方より御使ありて武具
もとりあつめ給ひて武具
き用意ありける又風月歌舞の
すてさうしんえんの酒宴乃具
ゆきなりの息男生年九歳也四雪也往ゆく
人すくなきあつまりて天骨を好うしも
長保の比東三条女院乃御賀の試楽之御
堂関白の長男宇治関白十歳のとき陵王ゆ
ゆ次男堀川右大臣八歳にて納蘇利を舞

事ありて古乃舞と今の舞と
名手ありあつまりかくれもなき年
の人を骨ゆえ人を感歎せしむる事
異曲同工といふべしや
十二日猿楽あり彦坊(ヒコボウ)といふ猿ゆえ一場の
ゆえ美作師又舞業にて他を
うつす猿ゆえはえもしられし人
感しきり作都も喜び入給ひ
給ふ
十三日正殿にて経冊乃御所の詩
歌乃ゆえの所に東坡の詩集より

[illegible]なり杵作之の事
[illegible]てあるふ顔勢
[illegible]ものとて伝教[illegible]
[illegible]八字をやうにかきねさるべ
[illegible]文の前に二株の松をかくてそしひ
鋤をうゑ[illegible]

鷲峰正法遍慶[illegible]　霊薬毒人還活人

五祖山中誰作主　栽松道者是前身

十四日[illegible]向の次
国中の名所旧跡をも歴覧[illegible]
[illegible]十一日[illegible]細川右京大夫勝元朝臣

卒去の間[illegible]東軍の棟梁[illegible]
[illegible]蜂起する事
[illegible]通路[illegible]
[illegible]期遠[illegible]
[illegible]伝教
[illegible]帰馬[illegible]

十[illegible]日[illegible]
十六日伊の国の伊賀[illegible]
見[illegible]
[illegible]二里[illegible]川[illegible]用情

[illegible]
金の化来せし同情社の編記[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]小雨[illegible]
[illegible]
[illegible]の中は霧屋[illegible]
[illegible]便船[illegible]
[illegible]日信[illegible]

走[illegible]谷の底[illegible]
[illegible]
睡眠の[illegible]
[illegible]郭遊[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
十七日又[illegible]月[illegible]
[illegible]六艘乃[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]に八十[illegible]
[illegible]
[illegible]の奥[illegible]
[illegible]
[illegible]

の比叡光厳天子南軍をそむきたまひ
て小路に行幸ありしかりけるに
りてもゆかんかいとまなくまるる
と今ありしかりしかりしかりしかりしかり
松の老木にかかりてあるなり
世にあるかぎりの君にかけたてまつる
民やすからんとかりしかりしかり
あるかりしかりしかりしかりしかり
名高き青墓里とかりしかりしかりや
契あるべきにはかりしかりしかりの
かりしかりしかりしかりしかりしかりん

長江寺にあるなり五十町ばかり
にかりしかりしかりしかりしかり本尊十一面観音
半跏像なりの中にかりしかりしかりしかり
なりしかりしかりしかりしかりしかり
物にかりしかりしかりしかりしかりん往来のかりし
りしかりしかりしかりしかりしかり

[illegible]

又もなくいつまでのみ外にあらい
さいはひなる事なるをもて
為もきつまの事のみもちひして
山の[illegible]道をたづねし紀
[illegible]の歌枕の名所をその所にいりくも
[illegible]ねもとをたづねる事なる紀貫の
[illegible]井をもとあるものの侍へ
[illegible]おもひのれはられの
[illegible]さうもあるものなる衣

[illegible]中山をもとめ
[illegible]にもある笠わしの里
[illegible]おさまぶ世をもつこん
[illegible]のれもの名ものらはる
時雨降る里に屋をもとすん
[illegible]きん[illegible]のつる名
[illegible]れ橋をもとみるもの
[illegible]れをもとあつけ初ん
[illegible]れいそをもとのきをもとす
[illegible]ふ菖蒲の義
五月雨のもとみもとれをもとめわ

[illegible]の山[illegible]
七夕乃歌せいとゆきとまれ
[illegible]
東路のくもゐ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

南行數里下陽坂西望平湖遠不波
孤嶋屹然何所似琉璃万頃一青螺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四十九院と物のあはれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

越後河をすくとて

[illegible]

[illegible]

観音寺といふ山寺をたづねて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の聲れ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
十三日行むとにそ[illegible]
[illegible]ふ[illegible]つを[illegible]三里[illegible]
[illegible]
[illegible]
時刻[illegible]
[illegible]風も
[illegible]
[illegible]

南來地望漢宮天　一夜江邊聽雨眠
白髮更添新白髮　青氈不是旧青氈

廿四日伊庭[illegible]
[illegible]水[illegible]
雨[illegible]小田の水口せきもあ[illegible]
[illegible]蛙[illegible]
[illegible]五十町[illegible]
[illegible]の[illegible]場
王[illegible]海[illegible]
[illegible]
廿五日馬場[illegible]

憶得三生石上縁　一庵風雨夜無眠

今朝更下山前路　老樹雲深哭杜鵑

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又服部川を[illegible]て[illegible]寺に[illegible]

[illegible]提門徒の僧侶[illegible]

[illegible]

廿七日[illegible]寺に[illegible]

[illegible]

菩提樹下古精藍　殿閣微涼來自南

暫借藤床兼瓦枕　鼾一睡味方耳

活計のうちもあはのんそ[illegible]

[illegible]

[illegible]

廿八日菩提寺[illegible]上野小田寺[illegible]

[illegible]

[illegible]川の水[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

乃こと無をなりて五千あまりの世乃教を
むろのむや老人乃朝夕之味傳聞ハ此道
をそれまくんをとかふ方ハ子ハ乃
ハみをても如雲乃うれ乃ハ蔭をと
をひあと信ひてをも世ハ流ハんとをす
をうをこの頃百の花の遊ハんされつまて
花乃ハ花宴ハ家の秋乃宴乃ハ
毎月の花ハあるハれふ宴家家淫を
妙質をたうをあぬをれふ人ハ花ハ人ハ
を風を作をすといふ事をうをうをて此
集をこの世乃ハ昔時この道ハをいく物

をあるハ秋をうをむしをうをんハ秋をせふ
ゆひ乃をねやをうををれいあるをくをれを
をうを焼をも作をせを秋乃哀を学てい
ハをうをふ乃をうれをも世ハ風うふれて
ハをえいはるを仰ふゆんハ草根をかつ
をあるふ宴ハ秋乃小作正廣をを千俵ハ
つをハ集を世をひろををんをあふハ
をうてはをれをハれを身をあをを業
ををうをあををいれををひをて
やむをををすををの世をふを
ををれををはをの稲の作をを秋をを

[illegible]午時文明五乃[illegible]月[illegible]
[illegible]桃花の[illegible]園[illegible]人[illegible]れを留す

古今童蒙抄序　　同

此集小顕注審勘[illegible]顕昭法師[illegible]
と京極中納[illegible]ひ[illegible]
[illegible]れい歌の義理[illegible]
ひ[illegible]世[illegible]小流布[illegible]
[illegible]代集乃跡[illegible]中納[illegible]
[illegible]ひ[illegible]れ

[illegible]年[illegible]
[illegible]や[illegible]以二乃[illegible]
[illegible]
[illegible]　假名序乃初[illegible]十九廿の
[illegible]巻[illegible]日[illegible]
[illegible]童蒙乃
[illegible]
[illegible]
つく家[illegible]の諸説人[illegible]の[illegible]遅滞と
[illegible]歌の通[illegible]定家卿[illegible]
[illegible]

いまれを基俊俊成より出る道をはげみ
代々の奥義秘事は伝乃
ふかあるへき道をもちゐ世をかなて
かの孫のうち邪僻を執わやまりをは
人をもて事をもはからやいはんやをや細いなり
くの事のはかりてよりはんう

歌林良材集序

同

そもそも良材乃ことはのうつりかはるとなり
なをもひろめたるものをもはさまをとめ
くるものもちふあるいうの

材をあつめる事をもはら紹乃道もこれより
れなりかつ赤人乃柳つれ万葉集を始と
ことを代集あはめをれあり初花言葉
何も歌乃ことやしれなりこれも来
の世の定家家隆これのりをのもとあ
をはりはかりこれをとりもちふあれを
ことを雲もまさうもの月乃とのうれ乃事をあ
ふをはかりかりをとをとをとをとをとをとをとを
きをはかりをとをとをとをとをとをとをとを
をむあををとをとをとをとをとをとをとを
ををををををををををををををををををを
歌林良材集ををををををををををををを

あるうむあるもふ

寢さめの記序

同

夢乃庵の歌人あれはしるるとなら
ひなふ老乃行ふらしもれさめくはく
とらうとなるわれいかなるものうらひとゆう
よるれるといなるとも来乃家むるす
をさめぬすんくゆくとを行のへて
一期乃月をかるまつのうるとしいを
うるをを小水ををかるれるんるなん
を頭燃をるるるふをなくを正法をきく

ゆいなるとをむ〜乃毒乳深入く光と信
知をすとなはるるるとるるるるる
るるれひのるるるやくれを行をく結
をなはるるるをするるるるるして
い著忘れをるるれ困苦乃地
ゆるるるるるるる又縁るるゆるて行るを過
玄乃戒善に今生るいるるるるるるるの
ひ来来のるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるる
れるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる

利[illegible]の往還さうしとなる
[illegible]世事[illegible]
[illegible]武家の政道と国家[illegible]
[illegible]官位[illegible]
[illegible]人の[illegible]
[illegible]通理[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]

神苦痛[illegible]
[illegible]恥辱[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]事[illegible]
[illegible]いやしみ[illegible]
[illegible]鐘[illegible]
[illegible]憤[illegible]
[illegible]
[illegible]

きてくやまうしかれとふ事をみかうく
しきふかしんちをひかふしかすよ和ら
うそうそう養育の恩をしらしてみわく
の蔵序をそれてくとなりめう法に孝行
のうちふかしたあ法不孝の人ぬまひはを
うわるやのうんかくをしらしうそ
てきいまもむかうあうひとかるふかくさか
ふすれうそかれて親子あひともしてう
路をとうすをそく一生をあいうれ
うすす和の妄心いをうつうう結ま世の人を
ちうあめはうを法うそ遠ふれはしうう

あるきうやはいるの人あるにをはうて
ふにをふまうぬうのとにすりてみるく勉強
れもむしくへは父母あり父母に必ず孝をふん
さうぬうふるあとれうもううそ孝行
をうう分は益をふのうたあ法父母の
きうそんとやむをしく人をみうるのうそ免
うをれをひうあぬうひつをにううをあ
ぬうふひはあうそいうるんるはうあせ
むうをうにうて法にわうをかうう子
ての人をうをうて父母のんの恩をのぬう
うをううるむとはをれ孝坊方便

のこゝろをなる事ハこゝろ[illegible]万差ふ
ゆくなりたれ[illegible]をなれ[illegible]人ハ毎日[illegible]
をしてもなりをなるなれいみ〳〵せすをもあれ
ゆへハなを[illegible]をもちふるをはりてをなるか
をもふ因縁譬喩をもるいせう人うを集
をもをふい者をなるこいなりといをわを
ハなを〳〵一をなるもをこゝろのいれ毎をや
なをを私の毎うなをうをこゝろ毎日を
注〳〵毎なを記をする事をなり

勧進念仏記序

同

人ハうをもうをなるハ人ハのをを〳〵仏法
をもをををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををを
なをををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををを釋迦如来ハおせをいを
をををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををを釋迦ハ様をををををををを
陀仏ハ荘厳をををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををを

[illegible]や完[illegible]して西方の教門とんかの上
[illegible]の要路をしめす唯心の海を示性の
弥陀と[illegible]
[illegible]
根を[illegible]
[illegible]
他力の舟を梅[illegible]て苦海の
彼岸の楽国の岸に到[illegible]
事をとなへ[illegible]
[illegible]の字文より
[illegible]宗の末釋[illegible]
[illegible]
[illegible]字[illegible]字[illegible]字八領

の聖教をあつめ[illegible]人の耳より
[illegible]
[illegible]事なれ

仏恩報謝会誠

同

抑[illegible]の[illegible]を[illegible]右の[illegible]
[illegible]天暦の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

代々[illegible]みちの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

竹林抄序

同

[illegible]連歌[illegible]日本武のみこと[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一冊なりしに二十卷となり新玉集
[illegible]
[illegible]
乃花の坊の文庫にうれため和歌[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
合計乃[illegible]
[illegible]

新玉乃光もいたらんかぎりなくの[illegible]
[illegible]
[illegible]
歌[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

世話問答序

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二百五十五首連歌序　藤原義良

[illegible]

扶桑拾葉集巻第二十一

[illegible]

[illegible]

扶桑拾葉集巻第二十二

目録

なくさの草　釋白儆
けりのむしろ　同
寄花述懷和歌席　同
山のすみ　藤原雅康
関東海道記　同

挾葉拾葉集巻第二十二

參議從三位兼行右近衛權中將源朝臣光圀編集

なくさめの草

釋正徹

いはしやもしのすゑとをそれはかへ古歌をいろく紙鳥はあるへしきかさなく成ぬまてさはしの所をはむしすゝりはをけるやうにさすらひあくこれるまてはしるもとをもれ
るすゝくしいはくうえ宴とさむしきやともはをまみの衣はきたに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

森の陰の一村里にて市の高人に拍さハ
うしきのみを所もいそくかと問ふ
もとふ時かるすや
天くに代りて為てもの神の山
下ぬ末にくるぬまに光くみを
こゝろひ後の山ちのくやとも云ぬかるを
張とるかるの方に為をもかる
かゝみ山をゝ時ひねの宿の家
月もひかりをそすゝ
むさの宿とかをゝ川をかる
月遊にをゝ家にも枝村をかる

くもきの花かをゝ
賦の枝をゝ
四十年の後もくるを道かをゝ
ちやすみ
若をゝ神をぬれ今ハ
ゝかいゝ
いぬうみをに山いゝ
ゝくゝ
日ゝ寺をゝ
ゝ
いゝ

作六しらん和人もの
多井畑の四りん人なとそういねうみれ
黒川谷とも やとていうなしと
みとけまとにかやねとのという所とそ
易故新大納言為尹卿和平は道の大将と
言い四をしうとも はしめ世をうねる
やこれをも すまれをうあねをと内大臣家
より多首の中なりしをいさうに
られをそうそう述懐の中より
いうをんをはし山崎をしうをそく
なれそうあるやとれるをと

おほ家をうさ分れ移ひ来りしに
いはうむすをんほを川のうち
道江の小野方梅磨れ細川は和平所の永
所の事ふ系の三系をうこうはしうと
し道のおとうへうをもうを武家の已
むせ井 なというをと月 成はく家の風
ををを沢さ四をうを以てよ少え行を
所ける なをへし 共年の冬波細川方
をを しはうを井をう やく山野をも已
をををへし おとれは山を煙行をと 少え
瀬よ面を恵行よ 陣志 元亨しも 時管領

右京北入道殿より知行のよしを申賜給て
のち一と申方後方に成て正三位権
中納言行雅卿の道を
しいたしたてまつりみしほとに明年は
のちの世菩提をとへ
きと思ひ給しかとも
しかの今は申すまじく侍よし給て
も懐旊は涙水くちはてぬすを
計を越しはう都は山もかくれてはる
今はあはれすあさましく
かなしすあるさまに

わこしはやはるを
番馬さらに井なしいはより山おろしこそ
星はきさらぬ水の紙ふるく常盤木
よみとりてきたる居屋葉の
の落浪庭の山吹えもいはぬ
かなしかるを

いとあはれなる水の
とりてやるを松の
今秋は山中はそ
有てまや山風も
むきくらして

[illegible]
[illegible]
[illegible]

行ったもむかしやまにこもる
なるものをいかにかいかにみちのくに
ちりそくみれば人の今は世とへ親の
すまるを行ったもやまし みちもなき
ぬべきかの人の同なるとしくはおいもの
は涙なくやまちしてはかはかりの人
も都に行なりしを若んかとかく
いそぐもうさとうたりかりきか
きぬるかちくしてはなるとして
ぬしくしは行もしあるかてやく
卯月はなるぬ山かの山のさ面もしもしら

も田面まそ林の都ちうくいたる村竹りくま
ア民の家かくこの新蓋せかきはさえ
さるうう立をへうるかるまるかるまる薄
はかりとちもまも都よりたりまの行かる旅
人の立堤の道もまもいかきはの分の
むるまるの弱はまもまもまもまも
きれもをへし 日はかりまるれ
ちるくまるまるし和の蛙の耳かるま
きるちるちるまきるちるまを遊蛍不
はの卯花のほのるはるを
行もまるまるまをみまるむるる面れ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

事は故ある事なれども世俗
に成て人も知る所なれ
ども明徳は此軍に
なりて世の中は盛衰は佛の御上なれ
ども一切衆生の為なれ
ば今年は弘長元年なれば
十年ばかりんとみるなれども
うみしなれども
なれば此二股
なれば底の竹垣の内
に
なるべし
かゝる時は此御堂の
はみな
ばかりしまれ人なれば
なれば御堂なれば仲
なれば会なれば
なれば
なれば

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぬるとおぼしきすに人音もせずひとつ家東
東江川にそそぐ小河あり 緑竹深き
かりひろく胡日うかべさす南は高き
山形〳〵みどりわたり松風爽やかなり
八月霜とうさねの面もおかしあり野原
さんざんにて一むらさきつゝきの蓮もちり
ぬるひろき池小舟浮べ鴛鴦鴨と
つるゝ家ゆ橋の柳岸の枝
むらゝに寝くらすもかなしき
むらゝに舟をもとゝのすれば死みを浮ばさゝ
けしうゝ西日しの高き山なり

ら山中のくれしゝ百姓里方よりつる
里流水左右すなゝ岸あるもの
又ゝ舟をすれ通ゝ流ゝ遠しや
くゝ竹垣廉垣竹を編はいもはいくゝと
みきゝもゝ浪のうちとなりなり
すゝゝ竹庵編竹のもとゝ入くゝ
竹ゆ寝室高竹もゝ寝殿の西ゝらつゝき
ゝゝ市日一ゝ竹陰補池大土お
いゝすゝ西市ゝ牛竹陰補池大土お
價を家ゝ竹ゝ竹ゝ坐禅弟子とゝ家
中人ゝ竹ゝ竹ゝ竹ゝ竹ゝ竹ゝ竹ゝ

八人も寄りおり、酒さかもりこの度
寄合とて、三人寄れば、一人の御を
うく御縁と、乃ち先ん、きの机まで和合れ
珍物に重ね山と、人数盛りて、客席のうち
い松茸などを、多くさかなとして、ふたも
笑天よりて、曇濃、茶を忘れ、こ
こに酒もくれ、さかもりて、酒もくれ、
あるものみな張り、中を懸敬遠の科二六
吟味もあるべき事なり、二六
えらぶ乃ち、天に捨てる悪想の、
これを事とし、ひとりんもの
きみをとくみ、行ひ、ひとりみ、
うなれをうむ、はのもの、
行ふ、なり、
日、
市は立、
なり、
姿の、
ぬ、
これ、
田の、
あるる、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八不堪のうへ以ての外の誤り
とて[illegible]
なれども老後の故[illegible]
なる紙帳元服乃ち[illegible]
入道勅行の門出[illegible]
[illegible]
[illegible]

六十余年うほて過年年年ちっともおよ
ぼえなきもはなとも思ふまして世の樹
頭ものちかつてしまし次人うみは釋門よいと
一渡ハ流石人の仏かつて方ちとても
さのみ事とすれ事なけれとかつて稽
も見ちを叩ちいつをさ事なはうつ
ちそいるみ作ちとも所謂ちすす先
拾人なるも仏なちうの仏かつして
ちつ重ちなまた乗れ脇とかつり
はしまを作ちはうほ出秋ちてする
つちちやうしく事ちそなつしさ仏後往

とうをちちを四の一帖もるはをさを
ちの河をちしく関人ちもををちる
なをさ秋とも立ちり四人もるひ
ちくせれさみくるまし三仏方人ち
ちいるを元事の河くはん秋をしり
さうる四ちは猿人の童形也連安
の道とをしうみ自作も消来ちも
しるく雪一日合ちるを立ちてちえ
仏河雪なせうは作ちしんをしく
ちん大和ちれ立ちるをを常ちいふ
ちとはるちを仏人をるを年い為う

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]原の[illegible]は みしら[illegible]月とか
[illegible]源氏の曉[illegible]ひろ[illegible]の下[illegible]
[illegible]をいたし[illegible]
むはまを[illegible]月を[illegible]
[illegible]
[illegible]月も川浪も
[illegible]みしら[illegible]
[illegible]なるもし[illegible]
[illegible]月の[illegible]すむ露の
[illegible]
[illegible]

月[illegible]月[illegible]戸[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]みん中とか[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

又夜[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くつ[illegible]の[illegible]なみさの[illegible]を

[illegible]二八[illegible]

ふとひく夕の[illegible]

[illegible]

[illegible]

うすとも[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとと市ういく四四ろう公付幽玄を
きつむことあい和年れ謡頭速年はまく
きいあるまき四四ろうの人紙よろ寺事一稱
なるへしいるゆる世四れ門は鳥の四ねを
ひいちれろ四ろうきうさはのくといねる
こし源氏のんをとろう年古兼四ろ
法年四ろ四ろんの法京極殿政
ちうろうのうをきけうとはる
四のくみ世ろうゆのう紙
ちうき世ろ八等思ねる人京といる頭ろ四大
暗ねる高兵

四ねるに京はれうとのうを持四
四ちれ兼ゆも純ぬるうん
四なるへし
故法寺寺八通殿 勅解由小路殿法名道將
はふひとうろうをもはる
といる白ろう
ろりを法四ろやとろ紙中へて
といる白やうろう
少將のうろ丹はるろう
ろ紙法ろ紙四ろをとりぬるし唯今れ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]五の年七月十八日に執を書
事をつかまつる

かくれなきすぎの後まつ
いうくさらんものをひかる

[illegible]清巖公神正徹が八歳
[illegible]の道[illegible]
[illegible]代[illegible]家 杉のもの代
[illegible]

十九日小野の御[illegible]
面[illegible]杉梅院[illegible]

同

[illegible]日朝[illegible]
[illegible]

返

[illegible]
[illegible]
[illegible]の朝内[illegible]
[illegible]堂の[illegible]
[illegible]日[illegible]
[illegible]

ちくしょうの夢をかたりてはらう
事なり

朝の雲夕はの雨とかとりしへ今は昔の
夢とかりそめの花のもとに鶯よんとせし
しをひかりの行ちかの行すゑ
しの松の音とそふかきちかくよ
秋の月は庵れて沼しるすの音へとも
無拍子なりしかは雲はいつしか晴を
そひ数をそへ男女をちみ
ゆくも胡蝶の夢の花のもとにかりの
さかえ事のかれとちくるふ
死をもとうとそ定まる世人のひとも
今をかれとちくるしてをの秋を
をかりかをもこの二十の春あるとも世の
不縁をなひをいうなる故よと
をのをしくををくをを移りををを
かをまの花の春ををををの
市ををみををををの
ををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
永享二年[illegible]月北野のかたに
[illegible]人の持佛堂へ
[illegible]一枝の草を進して
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]人へ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

寧花述懷和歌序　同

[illegible]花萎葉の[illegible]秋に[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]の世を思[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

てかはらく黄泉をたゝれ給ふこそ
おもひやるなほいまゝいふの身をいとふ
なく世あるものと行くのうちにも
うちて法花をぬきとりて衣とうちて伝教を
ふきまゐらせにて光信いるほうり
をうちうして年のわもてんこれをいる
そ多宮こゝろくてすすてまこ十年あまり
あたらしかりしに去年のなりつくあ墨
の数をあまをとれたゝ涙ゆゝしかりまれむ
ちるふうるのれのよこ行うて けふうま世
なうなうとおもひしに結婚ふ仏まこ名

をかりとうらうかをきふ身なる称をも就
後のうらはあるほかたゝれ浪はうて
おもうて思ひもうけぬ濡きぬをたをまを
うれかれ紙をあかまれまれ恋ゆれを
なるるるとふはれ仏りなまをを
なるをまちまひなるをいと歌くゆ神
表ふさ仏をいをこの顔水まあるしん
も通なる耳まをを海り恋なれを紙さ
をひけんを世をむをうこと恋ひけ数
まをとをいうふをうをたれ紙
を通紙をもこの仏信をうを通なりや

高心行林の古人こゝろ
ゆ人まして高位にあ
の軒よ殘しい世の
はるに弟はは
なる紙けり作世
ひもいてきそ
書にはれもの
位しさの弟
ひを作紙
はて又なり
芸沢枝果といる

の人なる紙をなく弟
ゝ作世を紙
にゝもの弟
ゝもの門の
きいはれ世
なの図と
はるい弟
なゝてゝ紙
射ゝゝゝ
そゝかゝ

[illegible]
月やあるらむ　むかしのうれとおもふにも
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

山の庵

藤原雅康

文治二のとし十二月廿六日 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]
[illegible]
宴の[illegible]
中[illegible]
[illegible]
上[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いふして君[illegible]
[illegible]と[illegible]
御車の行[illegible]
[illegible]阿弥陀仏中尊如大如来論
と仰る事[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]の寺にとゝ[illegible]
衆徒[illegible]
劇[illegible]寺[illegible]
仰[illegible]元應寺の長老摂取院恵思仰[illegible]
[illegible]車[illegible]
堂[illegible]陀羅尼[illegible]
[illegible]
[illegible]鑽十重禁[illegible]
[illegible]南の[illegible]路[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

下官体のうへ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

関東海道記

同

明應八年五月二日富士麿侍の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

宮古島にいらせられ給へ
あやちのまくらとと
七日依而道筋一行ゟ民部大輔殿
ゟ[illegible]
宮古人さしたのうり[illegible]
ふさたさ[illegible]而屋[illegible]
返し
[illegible]
而[illegible]

八日今日宮古ゟ西ゟ[illegible]
[illegible]十五首[illegible]
初春
道とおし一代を西ゟ[illegible]
[illegible]
柳風
さしをやを[illegible]
[illegible]
[illegible]
をの[illegible]神や[illegible]
[illegible]

逢恋

積のさゝふうしみ高き思ふこゝを
うゑなくかなもえ恋すの海を

松

君ふ〳〵ゆへい亀の尾ま高ま海も
松ゝさて物ゝ言 代のこゝ

式部新亀山ゝてゝ

十三日國府仮殿へ遷幸 玉所ゝ国も
こゝ遷ゝ一絃の中ま

郭公

宮こゝきゝ出ふゝ山ゝ

伊勢ゝ
網源

むすひゝ引ふゝいゝ井ゝ水のゝ世を
おりへいひさこゝ也ゝ

恨恋

いゝのゝまゝたゝれゝゝ恨ゝ
かゝ侵ゝよゝも一枕ゝを

十六日太神宮ゝ代宮の金ゝ
こゝみこゝこゝこゝつゝけゝ

五十鈴川四ゝ
かゝへゝまゝに濃海

十七日尾列大野より つき伊豆の早
雲寺 [illegible] 一見の次り 後列 今川家 [illegible]
わすれ [illegible] 伊豆国志 [illegible] 東
年を [illegible] 戸 [illegible] 伊
[illegible] 思ひ [illegible] 伊豆 [illegible]
侍 [illegible] 西
[illegible]

八日 [illegible] 川 [illegible]
[illegible] 川 [illegible]
十八日 智田郡 [illegible] 川 水野右衛門 [illegible]

五所より つき 伊豆 [illegible]
[illegible] 熊地 [illegible]
[illegible] 伊 [illegible]
[illegible] 二十首

山霞

春 [illegible]
花園山 [illegible]

旅

[illegible]
みちの [illegible]

旅

[illegible]

[illegible]

今日懸の切立を[illegible]

[illegible]時

[illegible]月

わさをの[illegible]

さをもみ[illegible]

旅宿

杉濃[illegible]

[illegible]

十九日八橋をみよとて[illegible]

[illegible]

[illegible]

所まで つゝ 海松とゝ く 伊勢なる
人の中 つゝ 侍
君といふ みち 人 神の 思
伊勢の 所 まわる 我も
過し 侍 そ 所 を 待
君といふ みち も 神 る 玉 神
そ 思 ぬ ん と し 為
大源 と 所 へ 舟 道場 も 社
そ や 尊 御 尊 く
御 源 へ 侍 給 と 思 し
そ 思 し 舟 せ り

さ ふ 舟 ま わ し 侍 く 所 ひ と 永
み も の 松 つ く へ を 送 し 侍 も 所 も
な つ 家 侍

那 段 つ わ る 舟 も わ ま 人 法
わ の そ く ま そ 一 松 わ す 所
伏 五 日 伝 久 源 い る わ 舟 侍 く 以 法 侍
と 云 小 侍 る 屋 る 日 み 日 よ 山 水 の 為
そ く な る と る 日 く 日 し 山 松
の 神 も そ い し く
そ く し 為 も 世 す 紙 り 山 所 の
そ 所 ま と ま そ や 乞

廿八日舟をいそし侍るに右の方より何とも
なく師山寺とて紙こまとも山とも
なき岩の形ありみわたされて
むしろをしきたるやうなる石の面
いはをなめて筆とるべし
御所風呂とて温泉やかなりいとをかしく
舟のうちもうれたる
八つにて白い石ばかりにてあつまり
やうやうにて海もいとれ
六月一日今橋のさとを立て二村山の
麓のほとりをとをりて
意しらるるまでよりの事なれもしいく
らかなる
とをくとをくとをるとをるに
山の色うつる山田のおもて
もちひは遠江国舞坂といふ所にて興津と
又清見堂に一宿して侍り堂のうしろ
よりて押寺侍り
うしろに見し津の里にそそくて
霊山寺清見の
二日寺といふ鵜飼の後をいとなんで舟
まれるとの方まいるに細江をとをりて

いせくまの山をこえて伊せ
ちをみまはるに
川岡の宿をすぎらまや
ゆきとをみまはるに
わきて野はら
西行原をすぎまはるに
はやさらしなの
八日伊勢中山をすぎて
を過ぎ
日の暮れ
ちまの名やまも
同伊勢の国を最初祖雅経卿
みちをぬけ
さ伊の中山を
日の出
東やあ
九日伊勢中山
を
昨日
百俵
月
ちまの
みちを
さ伊の中山を
日の出
東やあ
九日伊勢中山
を
昨日
百俵
月
ちまの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又ちらひるきはしはあをかの
十六日信貴山をみくるまる
ちかみさらんひうまてはしをり
いはをこやしはるてさ歩
意の杉原こいつの前の雲をもいつ体く
むすこ意の雲のまり人間
はまをなきなりをつきをるん
矢ちれのちとうるつく
とけはあもむ国のいくさみく
矢ちれのさちとしてあ
十七日又水野右衛門大夫殿御
の窮屈とて敷ちをかけ
かしこの遊面しきる猿楽以下
楽屋
廿二日二首懐紙とて
朝蝉
猿ふしく体ま日もわ行うもも
をみけをちを芝と朝を加る
忠意
乃ちをの
さすう心はいろいろんをを
道へとれ侍しを音稽なを意体

[illegible]

[illegible]

みちのくの[illegible]

七月七日関氏邸　大浦　宿[illegible]人[illegible]類を

[illegible]

七夕祝

いとゝ[illegible]

[illegible]

情月

[illegible]

[illegible]

寄露恋

秋の[illegible]

[illegible]

述懐

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

返し

今はまた[illegible]のの
[illegible]乃山こえ
[illegible]曇れる雲みな
[illegible]の山
[illegible]
[illegible]
又飛世に波山を[illegible]
の音を[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
宗祇法師[illegible]
[illegible]
[illegible]

返し

[illegible]
[illegible]

三井寺へ[illegible]

もりつくすけり

うしなふこころのふかきはる

なつかしきかのはをるなつかり

返し

不二の山とそなたにさもちかれ

称ひいかりのたるなつかはし

拾葉集巻第二十二終